

図1 津波防災対策計画の全体概念図

国際津波防災学会 津波防災対策検討分科会

わたしの地区では、東日本大震災の後、日本海溝・千島海溝沿いの巨大地震の津波に備えて、津波防災対策を住民の実情や将来計画を反映したものに改訂したいが、作業が進んでいない。防潮堤は一部整備されてきたが、防潮堤だけでは足りない分に対処するための情報も欲しい。

わたしの地区では、南海トラフ大地震の想定がなされた後、津波防災対策計画の作成が進んでいる。事情があって防潮堤を作るのは難しい。地区の実情に合わせて、津波防災対策を適切に選ぶための豊富な情報が欲しい。

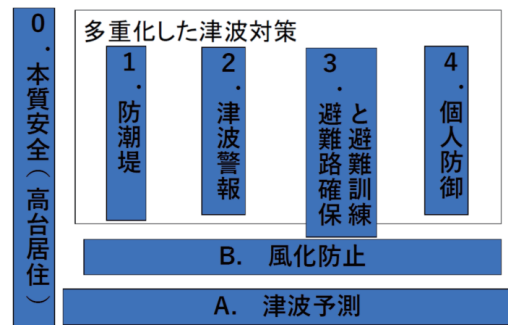
そのような皆様に提供するさまざまな実用的な情報を検討することを目的として、2019年10月に「津波防災対策検討分科会」が国際津波防災学会内に設立され、これまで、「地区住民による津波防災対策計画立案のための手引き」の目次案(キーワードと説明)について、さまざまな議論をしてきました。

本分科会では、地区津波防災対策計画を評価・作成する際の留意点として、以下を議論してきました。

- ・地区の地理的、社会経済的な実情の反映
 - ・津波来襲時の減災対策と平常時対策、応急対策、復旧対策、将来計画(町作り計画)の統合
 - ・津波防災対策技術の多重化
 - ・ハード対策とソフト対策の整合性(*1)
 - ・女性、避難困難者、情報弱者、他への配慮
 - ・公助、共助、自助の各々の間の関連
 - ・地域津波防災対策計画との整合性
 - ・津波以外に対する防災対策計画との連携
 - ・津波防災対策の実装、保持(点検)、見直しの組み込み
 - ・複数の津波対策技術を評価して選択(*2)
- 評価の基準: 1) 目標達成への寄与、2) 必要リソース(予算、人員、能力、組織体制、時間等)、3) 実現可能性(難易度、偶然性、外部要因等)
- *1: 南海トラフ地震防災対策推進基本計画(令和元年(2019年)5月中央防災会議発行)の「ハード・ソフト両面にわたる施策の整合性を確保し、ハード・ソフト両面にわたるバランスのとれた施策を推進する」という方針に対応

*2: 防潮堤等のハード対策から津波避難等のソフト対策までを見通し多重化をして、効果をスコアとして判断し、その地区に合った津波対策を検討する。

津波対策の体系化図



津波対策スコア評価表(検討中)

	津波対策スコア最大値			評価例 (宮古市国宅)			あなたの地区は
	レベル1対応	レベル2対応	注	震災前予想(点)	震災時(点)	2021年4月(点)	
0. 高台居住	150点	200点		0	0	0	0
1. 防潮堤							
連続コンクリート式	100点	200点		75	50	125	0
段階式防潮堤	75点	150点		0	0	0	0
電機式防潮堤	50点	100点		0	0	0	0
2. 津波警報				50	0	50	0
3. 避難経路確保と避難訓練	50点		避難路が100m以下で毎年避難訓練している場合は200点	50	25	50	0
4. 個人防衛	50点		避難ルート、ラジオアラーム等の最低限が備わっている場合は100点	0	0	0	0
5. 風化防止	50点			50	0	50	0
総合評価				225	75	275	0

当分科会の QR コード (HP)/(Facebook)

